

調査票D

問3. 入院中の処方についておうかがいします。

A. 患者さんの処方について、投与量を増やしてほしいと感じることがありましたか。

- | | | | |
|------------------------|------------|-----------|----------|
| 1. まったくなかった
(問4に進む) | 2. あまりなかった | 3. たまにあった | 4. よくあった |
|------------------------|------------|-----------|----------|



B. そう感じた理由は何ですか。もっとも近いものに1つ〇をつけてください。

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 患者さんの症状が改善しないから |
| 2. 患者さんの症状が悪化しているから |
| 3. 患者さん自身が希望しているから |
| 4. 看護の関わりでは限界があるから |
| 5. 夜勤体制時など、病棟運営上、患者さんの鎮静が必要と考えるから |

C. 投与量を増やしてほしいと感じたときに、医師に情報を伝えたり相談することがありましたか。

- | | | | |
|------------------------|------------|-----------|----------|
| 1. まったくなかった
(問4に進む) | 2. あまりなかった | 3. たまにあった | 4. よくあった |
|------------------------|------------|-----------|----------|



D. そのやりとりの後に患者さんへの処方を変更されたことがありましたか。

- | | | | |
|-------------|------------|-----------|----------|
| 1. まったくなかった | 2. あまりなかった | 3. たまにあった | 4. よくあった |
|-------------|------------|-----------|----------|

問4. 入院中の処方についておうかがいします。

A. 患者さんの処方について、投与量を減らしてほしいと感じることがありましたか。

- | | | | |
|------------------------|------------|-----------|----------|
| 1. まったくなかった
(問5に進む) | 2. あまりなかった | 3. たまにあった | 4. よくあった |
|------------------------|------------|-----------|----------|



B. そう感じた理由は何ですか。もっとも近いものに1つ〇をつけてください。

- | |
|---------------------|
| 1. 患者さんの症状が安定しているから |
| 2. 患者さんの副作用が強いから |
| 3. 患者さん自身が希望しているから |
| 4. 患者さんが過鎮静になっているから |

調査票 D

C. 投与量を減らしてほしいと感じたときに、医師に情報を伝えたり相談することがありましたか。

- | | | | |
|------------------------|------------|-----------|----------|
| 1. まったくなかった
(問5に進む) | 2. あまりなかった | 3. たまにあった | 4. よくあった |
|------------------------|------------|-----------|----------|



D. そのやりとりの後に患者さんへの処方に変更されたことがありましたか。

- | | | | |
|-------------|------------|-----------|----------|
| 1. まったくなかった | 2. あまりなかった | 3. たまにあった | 4. よくあった |
|-------------|------------|-----------|----------|

問5. 入院中の処方についておうかがいします。

A. 患者さんの処方について、薬を変更してほしいと感じることがありましたか。

- | | | | |
|------------------------|------------|-----------|----------|
| 1. まったくなかった
(問6に進む) | 2. あまりなかった | 3. たまにあった | 4. よくあった |
|------------------------|------------|-----------|----------|



B. そう感じた理由は何ですか。もっとも近いものに1つ○をつけてください。

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 患者さんの症状が改善しないから |
| 2. 患者さんの症状が悪化したから |
| 3. 患者さん自身が希望しているから |
| 4. 看護の関わりでは限界があるから |
| 5. 夜勤体制時など、病棟運営上、患者さんの鎮静が必要と考えるから |
| 6. 患者さんの症状が安定しているから |
| 7. 患者さんの副作用が強いから |
| 8. 患者さんが過鎮静になっているから |

C. 薬を変更してほしいと感じたときに、医師に情報を伝えたり相談することがありましたか。

- | | | | |
|------------------------|------------|-----------|----------|
| 1. まったくなかった
(問6に進む) | 2. あまりなかった | 3. たまにあった | 4. よくあった |
|------------------------|------------|-----------|----------|



D. そのやりとりの後に患者さんへの処方に変更されたことがありましたか。

- | | | | |
|-------------|------------|-----------|----------|
| 1. まったくなかった | 2. あまりなかった | 3. たまにあった | 4. よくあった |
|-------------|------------|-----------|----------|

調査票 D

問6. あなたご自身について、以下の項目にお答えください。

性別： 1. 男性 2. 女性	年齢： _____ 歳
看護師免許取得後年数： _____ 年	精神科勤務合計年数： _____ 年
正看護師 ・ 准看護師 （どちらかに○）	

問7. 病棟での看護方式はどうなっていますか。それぞれの説明を読んで、もっとも近いものに1つ○をつけてください。

<p>1. プライマリーナーシング 1人の看護師が、患者さんが入院してから退院するまでの全期間を受け持ち、看護計画、ケアの実施、評価を行う。</p> <p>2. モジュールナーシング 看護師をいくつかの単位に分け、それぞれの看護師が数人の患者さんの入院から退院までの全期間を通してケアする。プライマリーとチームの混合方式もこれに当てはまる。</p> <p>3. チームナーシング 数人が1つの看護チームを組み、チームリーダーが中心となって看護計画を立て、カンファレンスを開き、業務遂行の監督を行う。</p> <p>4. 受け持ち制 その日その日の担当看護師が、患者さんのケアを受け持つ。</p> <p>5. 機能別看護 注射など、業務ごとに看護師を割り当てる。</p>
--

処方について

—ご担当の看護師または薬剤師の方へ—

以下の4時点での処方内容を調査します。

- ① 入院日の処方
- ② ①の処方(入院日の処方)がはじめて変更されたときの処方
(副作用止めの追加や睡眠薬の追加、精神科治療薬以外の薬の変更などは含まず、最初に抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬などの変更・追加・増量・減量が行われた際の処方を意味します)
- ③ 入院日と退院日の中間日の処方
- ④ 退院日の処方

この4時点での処方について、「患者調査票(C)」の処方記入欄に薬剤名と用量を記入するか、もしくは処方箋をコピーして薬剤調査票に貼付してください。

※商品名、一般名いずれでも構いません。1日分の処方量を記入してください。副作用に伴う薬剤、睡眠薬などもすべて記入してください。風邪薬、合併症治療の薬剤などは記入してもしなくても結構です。

※経口投与以外の場合も同様に記入してください。その際、可能な限り、筋注・静注などがわかるように薬剤名のあとに(IM)(IV)(DIV)など記入してください。

※処方箋が電子化されていて、下の例のように入院から退院までのすべての処方がわかるようになっている場合は、それをプリントアウトして処方記入欄に貼付してください。4時点での処方について記入する必要はありません。

(例)

	入院時	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目	11日目	12日目	13日目	14日目	15日目
ソビクロン	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5
クロルプロマジン	100	100	100	100	100	100	50	50	50	50	50	50	50	50	50
オランザピン	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
リスペリドン											4	4	4	4	4
バルプロ酸	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400	400
ジスチグミン	0	10	10	10	10	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
ピペリデン														1	1

※コピー物を貼付する場合は、プライバシー保護のため患者名・主治医名はすべてマジックペンなどで消してください。

処方記入欄

<処方箋やカルテのコピーを処方記入欄部分に貼付>

① 入院日	② ①の処方をはじめて変更されたときの処方
③ 入院日と退院日の中間日の処方	④ 退院日の処方

協力施設礼状

先生

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度はご多忙の折、厚生労働科学研究「精神科急性期病棟・リハビリテーション病棟等の在り方に関する研究」研究班（薬剤調査）の調査票をご返送いただき、誠にありがとうございました。

入力と分析をすすめ、調査結果がまとまり次第、ご報告致します。その過程で調査内容等に関する確認のためにご連絡差し上げる場合もあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願い致します。また、ご不明な点などございましたら、調査事務局までご連絡下さい。

貴院のますますのご発展をお祈り致します。とりいそぎお礼のみにて失礼致します。

敬具

2004年1月16日

「精神科急性期・リハビリテーション病棟等の在り方に関する研究」研究班
主任研究者 樋口輝彦
(国立精神・神経センター)

調査事務局：

〒351-0197 埼玉県和光市南 2-3-6
国立保健医療科学院 経営科学部
伊藤弘人・小山明日香・中西三春
TEL: 048-458-6139 FAX: 048-451-7711

FAX 票

(FAX: 048-451-7711 伊藤宛)

10月6日(水)までにこのFAX票を調査事務局にFAXで送付してください。

■薬剤調査について

1. 協力可	2. 協力不可
--------	---------

■ 貴院の名称をご記入ください。

病院名	
-----	--

連絡先・送付先:

〒351-0197 埼玉県和光市南 2-3-6

国立保健医療科学院 経営科学部

FAX 票

(FAX: 048-451-7711 伊藤宛)

10月31日(金)までにこのFAX票を調査事務局にFAXで送付してください。

■薬剤調査について

1. 協力可	2. 協力不可
--------	---------

■ 貴院の名称をご記入ください。

病院名	
-----	--

連絡先・送付先:

〒351-0197 埼玉県和光市南 2-3-6

国立保健医療科学院 経営科学部

Ⅲ. 卷末資料：調査票等

研究 B：精神科リハビリテーション病棟のクリニカルパスに関する研究

調査協力依頼文

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

厚生労働科学研究「精神科急性期病棟・リハビリテーション病棟等の在り方に関する研究」研究班では、精神科クリニカルパス（クリティカルパス）の検討を行ってまいりました。平成15年精神科急性期治療病棟・救急入院料病棟の調査ではご協力を頂き、ありがとうございました。

この度、社会復帰病棟においても同様の調査を行うことになりました。今回の調査では急性期治療を終えた直後の方、また長期に入院されていた方の退院を支援する際に、どのような治療・ケアがどのような手順で行われているかを全国規模で把握することを目的としています。

ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、調査票にご記入頂く前に、7月22日（火）までに調査事務局まで同封のFAX票をFAXでお送りいただければ幸いです。

敬具

2005年7月

国立精神・神経センター 武蔵病院
院長 樋口輝彦

調査事務局：

〒187-8551 東京都小平市小川東町4-1-1
国立精神・神経センター 武蔵病院 院長室
沢村香苗

TEL 042-341-2712（内線3328）

FAX 042-346-1774

Email kana-s@ncnp.go.jp

調査の実施方法

本研究について

本研究は、今後の社会復帰病棟に必要な人員配置や設備構造基準、また標準的な治療計画を提案するために、現在行われている実際の活動について把握することを目的としております。

本調査はA. クリニカルパス調査、B. 病院・病棟特性調査、C. 設備調査から構成されています。

<A.クリニカルパス（クリティカルパス）調査>

病識・コンプライアンス・社会復帰への意欲等を課題として含んだ例を、想定例として挙げました。日常の臨床活動でもしばしば出られる課題かと思えます。先生方のお考えになる標準的な治療計画・活動計画をパス形式でご回答下さい。

手順

- ①社会復帰病棟（またはそれに類する機能を果たしている病棟）を1つお選び下さい。
- ②該当する病棟において、社会復帰活動を主に担当されている医師にご回答をお願い致します。
（他の職種の方が記入するのが適切と判断される項目については、分担して頂いても結構です。）
- ③想定例に基づき、パスにご記入下さい。（記入例をご参照下さい）同封のフロッピーディスクにファイルが入っておりますので、改変してお使い下さい。印刷したものに書き込んで頂いても結構です。

※パス（慢性期用・亜急性期用）が既に存在する場合は、そちらも合わせてお送り頂けると幸いです。

<B.病院・病棟特性調査>

治療計画には、受け入れ側の要因（人員配置や設備構造など）も関連する可能性があります。その関連を考慮してパスを検討するため、これらの情報についてもご回答いただけますと幸いです。

<C.設備調査>

可能であれば対象病棟の平面図をお送りください。病棟構造がわかるパンフレットでも結構です。

この記入用紙を同封のうえ、8月19日までに

事務局へお送りください

病院名	
御担当者名	
お電話番号	
FAX 番号	

ご返送いただくものチェックリスト

	A. クリニカル パス調査	B. 病院・病棟特性 調査	C. 設備調査
ご返送いただく もの	フロッピーディスク またはパス調査 票	病院・病棟特性調 査票	病棟平面図または 病棟構造がわかる パンフレット
チェック欄 (○印を記入)			

A、B、Cすべてをとりまとめて同封の返信用封筒で事務局へお送りください。

<A. クリニカルパス調査>

想定例

<事例 1 >

A 氏：35 歳男性。22 歳時、大学の級友が皆、自分のことを馬鹿にしていると感じるようになった。幻聴（「頭が悪い」と言われる）や妄想（自分の生活が盗聴・盗撮されている）が出現した。徐々に自室に閉じこもりがちになり、独語や壁を叩く行為が見られるようになった。両親とともに B 病院精神科を受診し医療保護入院となった。そこで統合失調症と診断され、抗精神病薬による治療で寛解状態となり 1 ヶ月ほどで退院した。しかしその後、服薬が不規則になり再発して入院、ということを経験を繰り返した。

今回の入院は 1 年前からの継続である。A 氏は服薬について「病院にいる時は〇〇さん（看護師）たちに頼まれるから飲んでる。外にいる時は飲まなくてもいいんです。」と話している。今回の入院中に自宅外泊した際にも、母親より「薬が捨ててあった」との報告があった。現在の症状は服薬により安定しており、他の入院患者と交流する姿がよくみられる。病棟では、看護師が薬を渡して声かけすると服薬する。

親しくしていた同室の患者が退院したことをきっかけに A 氏は退院を強く希望するようになり、「こんな所にいると本当に病気になってしまうよ。はやく退院して、一人暮らしして、働きたいですね！」と意気込みをみせている。自宅は姉の家族も同居しており、A 氏と姉はあまり折り合いがよくない。母親は本人をできるだけサポートしたいと話している。自宅近くのアパートが、退院先として候補に挙がっている。

身体合併症は特にはない。月に数回、バスで外出し買い物をすることを楽しみにしている。単身生活の経験はないが、作業療法の一環として料理の経験があり、小遣いは自分で管理している。自宅と病院は同じ地域に属し、バスで通うことができる範囲内である。

1. この事例において、退院に向けた課題としての優先順位が高いものから順に番号をふって下さい。

- () 通院・服薬の継続
- () 日常生活能力の向上
- () 自立した、地域での生活への意欲の向上
- () 周囲の人々とのトラブルがない関係
- () 日中の活動への意欲向上
- () 就労
- () 家族との良好な関係
- () その他 []

2. 1のご回答をふまえて、貴院でのこの事例における退院までの治療計画をパスに展開して下さい。

＜事例 2＞

C氏：36歳女性。短大を卒業しすぐに就職した。内気な性格であったが仕事を真面目にこなすので職場では評判がよかった。しかし1年経った20歳時から、職場の同僚女性が壁の向こう側から命令してきたり、壁を叩いてメッセージを送ってくるので仕事はかどらない、と上司に話すようになった。また、母親が他の似た人にすり替わったと頻回に警察に相談した。半年ほど経って、隣家が自分のことを町内に放送していると憤慨し、投石して窓を壊したため警察に通報され、母親の同意によってD病院に医療保護入院となった。入院当初は治療を拒み、ほとんど部屋から出なかったが、医師及び看護スタッフの関わりにより1ヵ月ほどで徐々に薬物治療を受け入れ、退院となった。その後は外来通院で維持されていた。就職はせず、家でたまに内職をしていた。4年前に母親が急病により他界した。母の死から1週間ほどして近所の知り合いがC氏宅を訪問したところ、C氏がおびえた様子でうずくまっており、「声が怖いことを言うてくる」と訴えた。また、食事を取っていない様子で衰弱していたので、知り合いがD病院に運び、任意入院となった。父親はC氏の幼少の頃に離別しており、その後音信不通である。近郊に住むおば（母親の姉）が財産の管理を行っている。

入院から4年を経過し、たまに幻聴があるもののC氏はそれほど苦にならないと話している。服薬は自己管理している。病院のスタッフが、C氏とおばを交えて退院について数回話し合い、生活訓練施設の利用、その後自宅退院というプランを立てた。しかし、いつもC氏は「お母さんもいないし、ご飯を作ったり掃除をする自信がない。家に帰っても1人で不安だ。このままずっとここにおいてほしい。」と泣いてしまう。月に1度、病院のスタッフの付き添いのもと、近くの商店街で買い物をする以外にはほとんど外出しない。作業療法で絵を描くこと、書道を習うことを楽しみにしているが、料理はあまり好きでないようである。

1. この事例において、退院に向けた課題としての優先順位が高いものから順に番号をふって下さい。

- () 通院・服薬の継続
- () 日常生活能力の向上
- () 自立した、地域での生活への意欲の向上
- () 周囲の人々とのトラブルがない関係
- () 日中の活動への意欲向上
- () 就労
- () 家族との良好な関係
- () その他 []

2. 1のご回答をふまえて、貴院でのこの事例における退院までの治療計画をパスに展開して下さい。

<事例 3 >

E氏：22歳男性。高校在学中の17歳時から引きこもりがちとなった。一方で突然夜中に家を出て数週間放浪し、警察に保護されるということが数回あった。1年ほど経過してF病院を受診し、統合失調症と診断されて薬物治療を開始した。外来での治療は順調であったが、高校を卒業して家業を手伝うようになると、多忙のため通院や服薬が不規則となった。

半年ほど前から、突然全裸になったり、食事をとろうとしなかったりと、おかしい行動をするようになった。何をしているのか問うと「いろいろな人が話しかけてきてうるさい。それをやめさせるためにいろいろやっている。」と答えた。発話はしばしば支離滅裂となったり、同じ言葉を繰り返したりした。そのうちに全く食事をとらなくなり、4ヵ月前にF病院の急性期治療病棟に医療保護入院となった。薬物治療の結果、幻聴のある程度無視することができるようになり、異常な行動は減少した。1ヵ月前に急性期治療病棟から亜急性期病棟（開放）に転棟となった。病棟ではあまり他の入院患者と交流せず、臥床がちである。主治医が退院について話をすると、「仕事が忙しいから早く退院しなければと思うけど、まだやる気が出ず自信がない」と言っている。」

自宅は両親と妹との同居である。家は父方の親族でいくつかの事業を営んでいる。E氏の父親が経営者で、父親は跡継ぎとしてE氏に期待をかけている。父親は、「入院までしたのだから、完全に治して戻ってきなさい。」と言いE氏が戻り次第仕事（得意先回り）に復帰させることを予定している。母親はE氏の症状への対応や今後の治療の見通しについて不安を感じて、主治医や看護師に何度か相談をしている。父親は母親に「そうやって甘やかすから、精神的に一人前にならないんだ。」と言っているようである。妹は中学生であり、特に問題なく学校生活・家庭生活を送っている。自宅と病院は同じ地域に属し、バスで通うことができる範囲内である。

1. この事例において、退院に向けた課題としての優先順位が高いものから順に番号をふって下さい。

- () 通院・服薬の継続
- () 日常生活能力の向上
- () 自立した、地域での生活への意欲の向上
- () 周囲の人々とのトラブルがない関係
- () 日中の活動への意欲向上
- () 就労
- () 家族との良好な関係
- () その他 []

2. 1のご回答をふまえて、貴院でのこの事例における退院までの治療計画をパスに展開して下さい。

B. 病院・病棟特性調査票

問 1. 病院全体の病床数と対象病棟の病床数、平均在院日数

病床数		平均在院日数
全体：	床	日
対象病棟：	床	日

問 2. 対象病棟の室数

隔離室	室	個室	室	2人室	室
3人室	室	4人室	室	5人室	室
6人室	室	7人室	室	8人室	室
9人室	室	10人室	室	11人以上室	室

問 3. 対象病棟のスタッフ数

	常勤人数	兼任人数		常勤人数	兼任人数
医師	人	人	作業療法士	人	人
看護師	人	人	精神保健福祉士	人	人
準看護師	人	人	臨床心理技術者	人	人
看護助手	人	人			

問 4. 対象病棟で行われているプログラム (○をつけて下さい)

1. 入院精神療法 2. 入院集団精神療法 3. 標準型精神分析療法 4. 心身医学療法 5. 精神科退院指導 6. 精神科退院前訪問指導 7. 精神科作業療法 8. 入院生活技能訓練療法 9. 精神科デイ・ケア、精神科ナイト・ケア、精神科デイ・ナイト・ケア 10. 精神科訪問看護・指導

問 5. 利用可能な施設 (○をつけて下さい。特に貴院と同じ法人が運営しているものには◎をつけて下さい)

1. デイケア・ナイトケア 2. グループホーム 3. 福祉ホーム 4. 生活訓練施設 5. 入所授産施設 6. 小規模作業所 7. 通所授産施設 8. 福祉工場 9. 地域生活支援センター 10. 訪問看護ステーション等 11. 救護施設 12. その他 ()

調査票 B

問 6. 関連施設・団体との連携について

連携先	連携の難易度					連携の満足度				
地域生活支援センター	容易 1	2	3	4	困難 5	不満 1	2	3	4	満足 5
保健所	容易 1	2	3	4	困難 5	不満 1	2	3	4	満足 5
社会福祉協議会	容易 1	2	3	4	困難 5	不満 1	2	3	4	満足 5
福祉事務所	容易 1	2	3	4	困難 5	不満 1	2	3	4	満足 5
その他 ()	容易 1	2	3	4	困難 5	不満 1	2	3	4	満足 5

FAX 票

調査票に記入される前に、7月22日（金）までにこの FAX 票を調査事務局に FAX で送付してください。

■今回お送りした調査について、ご協力いただけるかお伺いします。

1. 協力できる	2. 協力できない
----------	-----------

■ 貴院の名称、御担当者名、電話番号、FAX 番号をご記入ください。

病院名	
御担当者名	
お電話番号	
FAX 番号	

連絡先・送付先: 187-8551 東京都小平市小川東町 4-1-1 国立精神・神経センター武蔵病院 沢村香苗 TEL: 042-341-2712(内線 3328) FAX: 042-346-1774 メール:kana-s@ncnp.go.jp
--

平成17年度厚生労働科学研究（障害保健福祉総合研究事業）報告書
精神科急性期病棟・リハビリテーション病棟等の在り方に関する研究班
（樋口輝彦主任研究者）

東京都小平市小川東町4-1-1 国立精神・神経センター武蔵病院
（樋口輝彦）

事務局担当：沢村香苗